１．プロジェクト名/チーム名/メンバー

日本の伝統文化を伝える

子供たちに日本の伝統文化届け隊

メンバー：手古英美、藤田紗千枝、元野広夢

２．背景・目的/目標

現代社会では、子供たちの遊びといえば、ゲーム機を使ってテレビ画面に向かうものが多くなり、外での遊びや、日本の昔からの遊びというものをする機会というものがなくなってきているように思われる。そこで、このプロジェクトでは、子供たちに遊び感覚で楽しく日本の伝統文化に触れてもらうことを目的とした。

また、子供たちに伝統文化に触れる楽しさを学んでもらい、そして、その体験を通して、日々仕事や家事などで忙しい親子さんの会話のひとつになることを目標とした。

３．プロジェクトの内容

１、受け入れて下さるところを見つける

最初は受け入れ先を見つけることから始めた。当初は小学校に出向き、プロジェクトをさせていただくことを計画していたが、小学校では規模が大きく、受け入れてくださる可能性が低かったため、依頼先を学童保育に変更した。和歌山大学から最も近い学童保育であるプラスリーに依頼すると、受け入れてくださることになったので、実際にお会いし、自分たちのプロジェクトについてお話しさせていただいた。

２、材料調達

材料調達ではそれぞれ自分の用意するものを決め、どこで手に入れるかなどを確認した。

３、資料作り

子供たちに伝統文化（華道、書道）を体験してもらうに当たって、これらの歴史も知ってもらおうということで、イラスト付きの子供でも理解しやすい資料を作成した。また、体験終了後に記入してもらうためのアンケートと感想カードも作成した。

４、竹鼻圭子先生（観光学部教授）にアドバイスをいただく

竹鼻先生は「日本文化研究」という授業をなさっているということで、私たちのプロジェクトを実施するに当たって、アドバイスをいただくことにした。私たちは当初書道の方では子供たちに絵葉書を作成してもらうことを予定していたが、竹鼻先生の方から、「子供たちみんなでひとつに作品を完成させるのはどうか」というご意見をいただいた。そこで、来月は七夕ということで、子供たちに筆で短冊に願い事を書いて七夕飾りをすることになった。

５、学童保育でのプロジェクト実施

学童保育では宿題をやり終えた子から華道書道体験に参加するという形をとった。まずは、華道から体験してもらった。はじめに華道の歴史から紹介し、その後は実際に自分で生けてもらった。生け花を完成させることができた子から筆で字を書く練習をし、短冊に願い事を書いていった。一通りできると後は折り紙などで笹を飾り付けて

いった。

図１　実施した華道体験の様子

図２　短冊の取り付けの様子

４．プロジェクトの成果

子供たちはおよそ 10 人いて、そのうち華道書道経験がある子は 1 人しかいなかったが、参加してくれた子供たち全員が体験することができた。また、現代の学校の授業形態では書道は選択制になっているそうだが、そんな中この体験を通して書道に関心を持ってくれて選択してみようと思ってくれた子も中にはいた。迎えに来られた親子さんの反応としては、子供さんの作品を見て喜んで下さったので、家庭での親子の会話が弾むことが期待された。

５．今後の課題

アンケートを取る事ができなかったが、相手が子供ということを想定して、もう少し時間と手間のかからないような反応のとり方というものを模索することが必要だ。

また、資金集めについては多くの方からご指摘を頂いたが、相手が学童保育先の子供だったこともあり、今回は自分たち出す方法しか思いつかなかったが、今後相手がもう少し大きな団体や規模が大きくなると、どこからか資金を集めることを考えなければならない。

６．まとめ

今回、この「日本の伝統文化を伝える」というプロジェクトを通じて、多くのことを学んだ。

まずは、子供が相手だったということもあり、発生しうるリスクに対してより深く考えておく事が必要だということだ。そして、臨機応変に何事にも対応することが大切だということだ。初め、チームの雰囲気は授業外で連絡を取ることがあまりなく、チームの会話というものが少なかったが、それぞれがそのことに気付いて互いに指摘することでチームワークというものができたと感じた。プロジェクトの内容だけでなく、そういったチームや集団での活動において大切にしなければならないことなどを学べたことは、今後の生活においても大きな収穫となった。